

# あばっさ

vol. 25  
アマゾンで地球の未来

\* ご住所等変更ございましたらご連絡いただけますと幸いです。

特定非営利活動法人  
熱帯森林保護団体  
Rainforest Foundation Japan  
〒154-0012 東京都世田谷区駒沢1-8-20  
TEL: 03-5481-1912 FAX: 03-5481-1913  
xingu@rainforestjp.com www.rainforestjp.com

1989年5月アメリカ人の友人が「明日ステイニングがアマゾンの長老を連れて、アマゾンの森を守るワールドツアーで来日するので手伝ってほしい」と連絡があり、気楽に引き受けた。まさかこの一本の電話が30年間に及ぶアマゾン支援活動に繋がるとは当時、想像すらしなかった。1992年のエコサミットで初めてブラジルを訪れ、支援対象地域のシンガーを訪問。訪れた10部族のインディオ集落の人々は全裸で、まるで石器時代にでも来たかのような錯覚を覚えている。シンガー川でワニが昼寝をし、ヒョウが川岸で水を飲んでいたり、夕暮れ時に吸血コウモリの大軍が枯葉が舞うように移動。コロケくらいの大さのゴキブリが空を埋め尽くす勢いで飛んでいた。獣道を巾30cmくらいで横断するアリの大群を目にした時は身震いし、夕日が森に音をたてて沈む光景に足がすくみ涙した。まるで御伽の国にでも迷い込んでしまったかのような感覚は今でも目の奥に焼き付いている。文明社会で生まれ育った私にとって、全てが初めての経験であったが違和感はない。自然の摂理に従い時を刻んでいるこの空間は、足ることを知る正しい人間の営みであり、全ての生き物がそれぞれを尊重し生きている心地よさがここにはあった。このような楽園が未来永劫続くのであれば、20000kmも離れた日本からわざわざ行くこともなかったが、この周辺では足音もせずにヒタヒタと開発の波が押し寄せる気配を感じた。まずこの外部との境界線で金採掘が始まり労働力としてインディオの若者が騙され連れて行かれ、エイズという高い代償を払い村に戻るといふ深刻な問題が起こった。同時期に世界のBSE問題で飼料に肉骨粉を使用しないブラジルの牛が注目され一気に牧場造成のためにジャングル破壊が始まった。インディオは独自の文化を継承し、文字も持たずブラジルの公用語であるポルトガル語も理解出来ない。外部の情報も知らずにいることは存続の危機でもあると判断し、1994年カヤポ族の6集落に寺子屋風の学校建設をし、インディオを理解するブラジル人女性教師を村へ送り次世代を対象としたポルトガル語習得の授業を開始した。また不法侵入者による高額で売れるマホガニーの乱伐を回避する目的で、数え切れないほどのマホガニーの苗木も植え、同時期カヤポ族の人口増加が始まった矢先に、結核が蔓延しその医療支援も行なった。各集落との連絡手段である無線機の設置も重要であり、水路移動手段のエンジン、ボート、燃料購入等も支援した。ささやかではあったが、その時々状況を判断し緊急に対応する支援を実施してきたが、何しろ初めてのことが多く、成果を期待できない結果に終わり落胆したことも多々あった。ここ数年は地球規模での気象変動によりアマゾンの乾燥化が急激に進み火災発生が起り、森を火から守る目的で、インディオ若者を中心とした「消防団」支援と近い将来、貨幣導入を余儀無くされる時の経済的自立を目的とした「養蜂」事業の支援事業を実施している。これらの支援事業は1989年に初来日した際、カヤポ族長老ラオーニの影に徹し、インディオの未来を見極めていた賢明なカヤポ族リーダー、メガロンとの30年に及ぶ信頼関係の上に実現してきた。当団体30周年にあたり、2020年6月メガロンを日本に招待し、イベントを開催することを考えている。

長きに渡り支援事業を継続出来たことは、設立当初より会員として助けて下さっている方々、個人で多額に応援して頂いている方、当団体のスタッフ面々、理事の方々。ここ数年現地へ同行して下さるフリージャーナリストのさとみさん、30年来アマゾングッズ等の協力関係にあるMWのメンバー。本当に本当にありがとうございます！そして数え切れない方々の愛と勇気を糧にアマゾンとの架け橋が未来への光となることを信じ、8月に34回目のアマゾンへ出発します。  
(南 研子)

**HOW TO HELP**  
<年会費>大人: ¥5,000 18歳未満: ¥3,000  
・郵便振替 00140-3-144187 熱帯森林保護団体  
・三井住友銀行 東京中央支店  
(普)7066247 熱帯森林保護団体  
\* 銀行からお振込の方は、  
お名前とご連絡先を別途必ず当団体までお知らせください。

## RFJ事務局に中学生来訪

去る5月31日、三重県の中学生6名が「職場見学」でRFJ事務所に来てくれました。代表の南がスライドを交えながらアマゾンの様子や現状を語り、中学生たちも真剣な表情で聴き入っていました。丁寧なお礼と感想のお手紙が届いたので、一部をご紹介します。



中でも学んだのは、アマゾンの森林がどんどん減っていき、その原因は僕たちにもあるということです。(Sくん)

これまで何も考えずに缶ジュースを飲んだり、原産国を気にせずに食材を買っていたりしたので、これからは原産国を気にして食材を買うようにしようと思いました。(Sさん)

お金や機械もない中、自分たちの中で食料をとったりしていてすごいと思いました。(Tさん)

一番印象に残ったのは、毒をのむということ。今まで大豆がアマゾンの木を切りたおして、できていると、思いませんでした。(Mくん)

アマゾンの森の保護はとても大変だけど、地球や私たちの生活には必要なことだとわかりました。(Nさん)

森林が少しでもなくならないように、ささやかなことでもいいから、これから努力していこうと思います。(Hくん)

## RFJからお知らせ

### 岡本太郎美術館20周年記念展に参加します

2007年に開催した「アマゾンの侍たち」展では、沢山のアマゾンの工芸品や写真を展示しました。この中から工芸品、羽飾り、絵等いくつか展示させていただきます。夏休み期間中など様々な催し物もあります。ぜひご覧になってください！

岡本太郎美術館20周年記念展  
「これまでの企画展みんな見せます！  
～前期/岡本太郎・縄文から現代へ～」  
前期期間: 7月13日(土)～10月14日(月・祝)  
開館時間: 9:30～17:00(入館は16:30まで)  
料金: 一般1,000円、高・大学生・65歳以上800円、中学生以下は無料  
場所: 川崎市岡本太郎美術館  
神奈川県川崎市多摩区枳形7-1-5  
URL: <http://www.taromuseum.jp/>

### 品川「VILLAGE TENNOZ」でのイベントに参加します

月に一度週末に行われる「子どもも大人もみんな遊ぼう！」として、様々なワークショップや飲食店が集う2日間のイベントです。RFJは、アマゾンの写真展と南研子のお話会として参加いたします。イブレリコーヒーやT-シャツ等の物販もあり、RFJ初KidsT-シャツも販売します！親子お揃いでお楽しみください！ ※数量限定

日時: 7月27日(土)11:00～20:00  
28日(日)11:00～17:00  
※南のお話会時間は、両日とも14:00～  
料金: 入場無料  
場所: VILLAGE TENNOZ「TMMT」  
東京都品川区東品川2-1-11  
(天王洲アイル駅より徒歩5分)  
URL: <http://village-tennoz.com/>

▼イベントの詳細は、RFJホームページ、SNS、各ホームページでご確認ください ▼

ホームページ  
リニューアル!

<https://www.rainforestjp.com/>

RFJは30周年になりました。これを機に、初めてアマゾンを知る人にもわかりやすく、ご支援くださった方々も楽しめるよう、写真を沢山追加し最新の情報を加えて心機一転リニューアルしました。

NEW Instagram  
はじめました!



@rainforestjp  
アマゾンの写真を続々UP中です!

アマゾン最新情報を  
FBでcheck!



NPO法人 熱帯森林保護団体  
ホットな情報を報告しています!  
facebookをやっていない方も  
ご覧いただけます

『30周年を迎えて』

RFJスタッフ 建守 麻奈

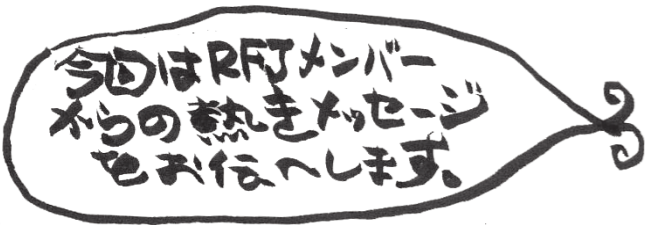


2014年ラオーニ来日  
Photo by: RFJ

初めて私がアマゾンの熱帯林を知ったのが、今から約13年前。その当時スタッフだった子と街のカフェで偶然出会い、ブラジルの写真集を見たのが最初でした。インディオの装飾や佇まいが強烈に格好良く輝いていたのが、今でも鮮明に覚えています。2007年、ラオーニが来日する際、彼らの滞在先のホテルと私の自宅が近いこともあり、ご飯係に任命されたのがRFJと関わった始まりでした。ここ数年で本格的に事務所と関わることになりましたが、深く関わるようになったことで発見が多く、いつも隣にいる研子さんが、とんでもなく凄いとところに行くんだなあと改めて思う事が多くなりました。アマゾンへの支援は、マンモスに立ち向かう1匹のアリのごとく、と研子さんは例えて言っていますが、この1匹のアリの持久力と精神力の強さといったらありません。森の乱開発により動物たちの行き場がなくなり、インディオたちの普通の暮らしが脅かされ、心が痛い事が多かったことでしょう。それでも諦める事なく続けてきたのは本当に凄い事ですし、多くの支えがあって30年で1匹がたくさんになった証しでもあります。

事務所です仕事をしながら、皆さまからいただくご支援の暖かさにいつも心を打たれています。熱いメッセージと共に活動を励ましてくださる方、RFJが設立して間も無くからご支援くださっている方、いくつかの講演会で共感していただいた方、近況をご報告くださる方、企業を通してご支援くださっている方、本屋さんや図書館で書籍を通してこの活動に出会った方、まだ会ったこともお話ししたことも無い多くの方々の想いを、仕事を通じて感じております。本当に心から感謝を申し上げます。来年の6月30周年を迎えたRFJとして楽しいイベントにできたらと思っています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

RFJ副理事長の森嶋彰さんが、国際社会で進むべき目標として、2015年に国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目的)を完結し、別紙で書いて下さいました。目標17項目の内、9項目は当団体支援に該当しています。



RFJ副理事長の森嶋彰さんが、国際社会で進むべき目標として、2015年に国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目的)を完結し、別紙で書いて下さいました。目標17項目の内、9項目は当団体支援に該当しています。

『RFJ30周年に寄せて』

RFJスタッフ 岡田 直子



2015年  
ジャングルとシンガー川  
Photo by: Satomi Shimogo

研子さんとは15年以上前、私がお勤めしていた「ほんの木」で『アマゾン、インディオからの伝言』の著者として出逢いました。それがいつの間にか、個人的な相談をするようになり、お手伝いもさせて頂くようになり、今では第二のお母さん?のような存在です。

RFJが今年で30周年を迎えるとのこと。数多くの海外NGOが撤退する中、決して大きくない組織で、現地との繋がりを大切に地道に活動を継続してこられたことに心から拍手の気持ちです。

アマゾンは「地球の肺」と言われるように、アマゾンの森やインディオたちの存在は、健康な地球のバロメーターのように感じています。“文明社会”の環境破壊や汚染は限界ともいえるところまで進み、親殺し子殺しなど人の心までがバランスを失う一方、地球の裏側にはアマゾンの森があり野生の動物たちが生息し、伝統的な文化と誇りを持ち森で暮らしている人々がいる——それは地球の最後の正気、健全さの証のようにも思えます。でもそのアマゾンが、新しいブラジル大統領の経済最優先の開発政策のもと、これまでにない危機に晒され、今後の行方がますます案ぜられます。

そのような中でのRFJ30周年、テーマは「私たちはどこへ行くの?」。このまま「便利」「効率」「経済成長」を求めて森を切り崩し、川や海を汚し、動物たちの居場所を奪い、人間自身の首をも絞め続けるのか? それともインディオのように大自然の一部として暮らしや命を循環させ、手足身体を動かし、自然や精霊たちを敬い、足るを知る暮らしをするのか? または第三の道があるのか? この機会に自分自身も子どもたちや周りの方々とともに地球における立ち位置と行き先を考えてみたいと思っています。

先日、三重の中学生から「この仕事をする上で大切なことは?」と訊かれ、研子さんは「あきらめないこと」と即答されました。悲観的になる方が簡単なくらいの昨今の世情ですが、いのち豊かな明るい未来を思い描きながら「今」できることを積み重ねていきたいと思っています。

『「アマゾンの里山」で自然と人が響きあう生き方の知恵を学びながら』

ジャーナリスト/支援事業コーディネータ 下郷 さとみ

私のRFJとの出会いは1991年、雑誌の仕事で事務所まで取材に伺った時でした。「来年初めてアマゾン現地に入る」と代表の南研子さんから聞いて、「そんなすごい秘境に...!」と驚き、「ブラジルって何語でしたっけ?」と素朴な質問をした記憶があります。ところが人生はわからないもので、ひよんなきっかけで92年から2年間、サンパウロのスラムでボランティアとして働くことになり、以来ずっとブラジルに関わり続けています。取材後すぐに会員になったのでRFJ会員歴もずいぶん長くなりました。

ブラジル生活で覚えたポルトガル語を活かして、RFJが2007年と14年にラオーニ大長老を日本に招いた際には通訳のお手伝いをさせていただきました。14年からは外部協力スタッフという立場で現地支援事業のコーディネータに、翌15年からは南代表にお供して年に1度のアマゾン現地視察にも出かけるようになりました。また、日々ブラジル発のニュースをチェックしてRFJのFacebookページでの情報発信も担当しています。

07年に日本でラオーニ大長老に初めて会った時、「ラオーニも私たちと同じ今を生きる同時代人なんだ」ということを強く思いました。そしてアマゾンの村に初めて身を置いた時、「やっぱりそうだ」と納得しました。ジャングルの真ん中で伝統文化を保持しながら生きる人々も、日本の私たちも、この同じ地球の上に生きる誰もが、外の社会とつながり、影響を受け、影響を与え合って、今という同じ時代を生きている……。そしてもうひとつ納得したのは、「ここも里山だ!」ということでした。

壊さない程度に自然環境に手を加えることで居場所と恵みを得て生きる、そんな自然と人が響きあう暮らしの場所を「里山」と名付けるならば、アマゾンの先住民族の村も同じだ!と感じるのです。私は05年に東京から南房総の山村に移住したのですが、農家のお年寄りたちから自然と共に生きる知恵をたくさん教わりました。アマゾン先住民の人たちからもたくさんのことを学ばされます。共に学びあいながら、南房総とアマゾン、このふたつの里山で地球の未来のことを考え、行動していきたいです。



支援事業のひとつ「消防団」のメンバーに日本の里山文化を紹介した。私が今住んでいる地域の夏祭りで鳴らされる雨乞いの太鼓の写真を見せながら雷神様の話を披露すると「ぼくたちにも雷の精霊がいるよ」「文化が似てるね」と興味津々の反応が返ってきた。  
Photo by: RFJ

2018年会計報告	
2018年1月1日～2018年12月31日	
2018年RFJ事業報告書	
2018年支援金計・・・・・・・・・10,899,555円	
1. 熱帯林保全事業	
支援対象地域周辺の加速度的な開発の影響で、雨季に従来の雨量が望まぬ熱帯林の乾燥化が深刻な問題となっている。この状況を回避する一環として、現地住民であるインディオの若者(カヤボ族、ジュルナ族)が中心となり、「消防団」をブラジル人の専門家(マトグロッソ州消防署勤務マリアーナ中佐)指導の下、結成し、熱帯林を守る目的とする消防団である。2018年8月、約40日間シンガーインディオ国立公園のほぼ中央に位置する熱帯林監視場所であるピアラスに14集落から招聘された約50名の消防士が消火、防火の講習やトレーニングを習得し、講習後は各集落へ戻りパトロール等の監視体制を組織し強化した。その結果、消防団が存在するこの地域での火災は最小限に止められた。この事業に係る全ての資金援助を行った。	
2. 経済自立支援事業	
支援対象地域内では未だ貨幣制度が確立していないが、数年後はこの制度導入が必至である。恵まれた自然環境は多種多様な植物群の宝庫であり、この恵みを頂き養蜂事業が始まった。4集落約10名の養蜂士がブラジル人養蜂専門家ウエメルソンの指導の下、技術を習得。外部への市場と流通の確保に必要な蜂蜜の商品認定証やクリアーするための諸条件のハードルは高く、まず蜂蜜作業場の規定に合わせた建設が必要となった。既にマチバ族の集落では完成したが、カラバラ族の集落において2018年9月に建設が終了し、2部族は外部出荷の準備に入った。2019年8月には実現する予定である。経済自立を目的とした当事業は居住地域の環境を維持し、尚且つ高品質の蜂蜜を外部に紹介する良い機会になると確信する。	
3. 先住民伝統文化継承事業	
カヤボ族リーダー、メカロンが伝統文化継承を目的とするモデルケースの集落建設の発案を数年前から開始したが、様々な理由で未だ実現するには至っていない。インディオの文化、知恵を次世代に伝授することは、インディオのアイデンティティを持つ上で重要なことである。今回も候補地を探すための燃料費や運搬費の支援をした。ブラジル社会において、従属することなく共生をしていくには、インディオの工芸品等の販売を通し外部に理解を求めていくことも重要である。	
4. 医療支援事業	
シンガー地域の住民が緊急に対応しなければならない状況に陥った時の医薬品代、治療費等を支援した。	
5. 現地視察諸経費	
国際航空運賃、ホテル代、食費、ブラジル国内交通費等。現地調達支援物資購入、先住民集落滞在に必要な備品費。	
6. 雑費	
海外送金手数料、ビザ発行費、健康診断作成費、ブラジル連邦警察への特別ビザ作成費等。	
<収入の部>	
2017年繰越金	¥16,887,068
年会費	¥1,420,000
寄付金(企業・個人)	¥9,983,835
物販費	¥234,100
助成金	¥4,321,238
(内田エネルギー科学振興財団/セディナ地球にやさしいカード/三井物産環境基金/トヨタ環境活動助成プログラム)	
利息	¥76
計	¥32,846,317
<支出の部>	
現地支援金	¥10,899,555
他団体賛同・支援金	¥70,000
役員費(アルバイト代含む)	¥4,535,000
家賃	¥2,960,000
通信費(国内/国際電話、FAX、切手、送料)	¥346,622
コピー機、FAX レンタル料	¥240,566
消耗品、事務用品	¥29,961
資料作成費	¥218,259
外注費(販売用書籍、販売物等製作費)	¥64,260
外部委託費	¥620,000
交通費、宿泊費	¥249,820
会議費	¥214,982
備品費	¥116,953
雑費	¥31,000
銀行/振込/両替手数料	¥216
次期繰越金	¥12,249,123
(内、2019年トヨタ助成金の前受金含む)	
計	¥32,846,317